

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	伊藤 龍仁	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本科目は基礎演習Ⅰ・Ⅱで培ったリテラシーを基礎に、「身近な自然」と子どもの「あそび」をテーマとして取り上げながら体系的、実践的に学ぶ。合同ゼミとゼミ活動を組み合わせて実施する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	テーマに基づき対面授業として実施する。自然体験と交流活動を重視し、ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、レポートティング、プレゼンテーションといったアクティブ・ラーニングに取り組む。情報共有や課題提示、フィードバックにおいてLMSを活用し、授業の一部をリモート形式で実施する場合がある。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	授業オリエンテーション	講師と学生の自己紹介、学習テーマ、演習の目的と到達目標、毎回のテーマと課題、成績評価基準などの説明、役割分担	<input type="checkbox"/>
第2回	子どもの「あそび」を学ぶ意味	子どもの発達と「あそび」 あそびの種類と展開	<input type="checkbox"/>
第3回	伝承遊び体験	独楽あそびを体験する	<input type="checkbox"/>
第4回	集団あそび体験	おにごっことかくれんぼの体験と交流	<input type="checkbox"/>
第5回	自然体験とネイチャーゲーム	平和公園における自然体験とネイチャーゲーム体験	<input type="checkbox"/>
第6回	ネイチャーゲーム研究	グループ単位で自然体験とネイチャーゲーム開発	<input type="checkbox"/>
第7回	ネイチャーゲーム研究発表 グループ(1)	グループ単位で開発したネイチャーゲームを発表 第1グループのゲーム体験と評価	<input type="checkbox"/>
第8回	ネイチャーゲーム研究発表 グループ(2)	グループ単位で開発したネイチャーゲームを発表 第2グループのゲーム体験と評価	<input type="checkbox"/>
第9回	ネイチャーゲーム研究発表 グループ(3)	グループ単位で開発したネイチャーゲームを発表 第3グループのゲーム体験と評価	<input type="checkbox"/>
第10回	総合演習全体活動	総合演習全体活動に参加する	<input type="checkbox"/>
第11回	あそびの発展	原型から発展したあそびの理解	<input type="checkbox"/>
第12回	あそびの技術	独楽の技術を高める	<input type="checkbox"/>
第13回	児童健全育成と児童厚生施設	児童健全育成とは何か 児童厚生施設とは何か	<input type="checkbox"/>
第14回	児童館の実際	名東児童館見学と説明	<input type="checkbox"/>
第15回	前期のまとめとキッズ・シティに向けて	授業のまとめ 名東児童館のキッズ・シティに向けた準備	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次回の授業を理解するために、毎回指示するテーマや課題を予め調べておく（2時間程度）。 事後学習として、授業で扱ったテーマや課題について関連資料を参照しながら復習する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

LMS上に提出された授業の振り返りは、翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	総合演習の学びの基礎となる社会、文化、自然等に関連する幅広い知識を習得しながら専門知識を育み、それを活用することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	基礎学力を踏まえた専門知識と自らの経験を基に、創造的に考えたうえで、課題について客観的に判断し、的確に表現、発信することができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	ゼミ生、地域住民、専門職、子ども達とのことで自己を理解し、主体的に他者と協働して問題を解決することができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験(in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的な内容)(Specific contents)

授業内で提示する各課題への取り組み姿勢と到達度、ゼミ活動への貢献度等から、教師・保育士にとって、必要な思考力・表現力・判断力・実践力が身についたかを評価する。

■テキスト(Textbooks)		
No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の中で、適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		